こくう物語
(一)こんな朝
鈴木翁二

配役

わたしは雲を眺めている
雲はわたしを知るだろうか
青い谷間を辿るとき
わたしは呼吸をつめている
涅槃に入られる
お釈迦さまの形……
泣いている因幡の白うさぎ……
それから
そうだクモエモンケイメイの横顔だ
空野雲右衛門景明！
一期一会のこの地上のそなたは
いずこの空の下にいますか？
（かれんの手記）

あ〜
甘露〜〜

なんと
甘露よなあ

ペロン

おじさん
それ
なんだ

おお、
村童か

これは水晶糖とも
玲ろう玉とも
いってなあ
甘いあまい
お浄土の露から
出来た飴玉じゃあ
ええい
見ろ!

本当に透き
とおったように
見えるだろう
どうだ!

将軍様しか
食べられんもの
だぞ
なめたいか
えい
なめたいかっ
うん
………

ホレ
ろん!!

どうだ
甘いだろ
………

くっ

うん

あッ
平吉ッ

だめじゃない
いつまでも
遊んでちゃ
風呂わかしな
さいよ
あんたの番でしょ
ダナ吉
おつかいは
ちゃんとしたのッ
あんた自分で
食べちゃったんで
しょ

うっせなあ
お客さんつれて
きたんだぞ
なによ

アラ

路傍にて
平吉くんに
声をかけられた
旅の人間です
ヨロシク
オジョチュウ
ふん

やっと
会えたね
カサ…

朝に生じて
夕べに死す……
孤露にしてまた
たのむものなし
か…… しかし
お女中
はい

ガイコツさん…
カサ…

あんたの目には
遠い町の火が
もえておる
いやはや
えっ

実に実に……
いとけない
菩薩でおわす……

あれ
おいでませえ
お客さん
どこからだね
おじょちゃ

うーむ
悪い夢を
見た

うッ
ぐふうん
あ～糞

……
実はさる高貴
の方の

当地では
健胃剤百草が
有名じゃのう
有名じゃんか
へえ？

オホン
あ～
おぬし方も名は
知っておろうが
しさいあって
秘さねばならん
がなア

そのお方の申しつけにより諸方の薬草薬法を求めて日夜さまよい歩いているという

ま……その……
という……ともかく……

わけじゃ……

へえ
いやいや火をつけたいのだて

？

おぬし縁遠い相だの

ま……

なに！

このお札を
枕元にしいて
寝るとよいぞ
良縁授かる
ありがたい
お札だ

そうですか
え～
六一賀来…
多…奈…
良……

えろう
むつかしいです
なあ
へへへ

あんたは
お茶
でも
持っといでッ
ダメ吉!

花漬け～
買いな～

ここだよ
なかなか
いい
室じゃないか

ほら
お山が見える
だろう!
おお…

きれいな
夕ばえだ……

なあ
おじさんは
薬屋さんだろ
うむ
まあな…

お江戸って
明るいかい
京は?
これから
どこへ行く?

そうだな

木曽路を
くだって…

あの山の向こう
側をまわって…
お関所を
通り……

それから
きみの歳よりも
沢山の峠を
越えて……

そうだなあ

ながれ
流れて
落ち行くさきは

北はシベリヤ
南はジャバよ
ピー

そうだなあ
越後の海にでも
立つとしようか
うわあおいら
行きてえ
な～
つれてっておくれ
ようつれてって
おくれよう！

きみの
父ちゃんや
母ちゃんは心配
するだろう
母ちゃんは
死んじゃった
父ちゃんは
お山に行って
もう帰ってこねえや

姉ちゃんは
どうする

う～ん
おじさんの
お嫁になって二人で
行けばいいや
平吉
ばかみたい！

平吉ばかみたい・・・

姉ちゃん……
なあに……
あのおじさん
あしたも
泊るか？
あんた
小遣い
もらったから
でしょう
姉ちゃんのこと
かわいい嫁さん
になるって
言ってたな
うそよ
子供のくせに
銭だ嫁だと
早くねろッ

いい音色じゃのう…

うん
じいちゃん
お客さん

ふるふると心にしみてくる……

うん…

ひょろ

ひょろ

笑っている
ザッ
なあに？

どうせ
いちどは
あの世
落ち
流
ゆく身じゃ
ないか

チクチク

ペチペチパー

ヒットホー

ピルル

クス
……
おねえちゃん

コラ
へいきち

なあに
あたし
おんなヨ
おへいちゃん

クス
おはよう
しゃん

向こう
おむき
なあに
やあよ

ウッ

クス

ポンきち

なあに
?

クス
クス
クス
クス
クス
クス

?
クスクス
クスクス
クスクス
クスクスクス

じいちゃん
病人は寝て
なきゃだめじゃ
ないかっ
ほれじゃまだ
どいたっ
アンタは顔でも
洗っといでっ

ふんとに
もう！
なあに
？

変な子

うう、
うう
う〜

何故
息をつめて
しまうんでしょうねえ…

のんのん
のん～
……

そわか

青い青い空で…
ねえちゃん
うんこ？

……

見ないで！

隊長さん
いるか
いるよ、
じいいっと
……

想ってる
ワ……
そんな朝があったのか……

サアッ
腕を拡げて
胸の体操オオッ
サアッ
腕を拡げて
胸の
胸の
胸のオオッ

姉が言ってましたっけ

あんたは朝になると
お腹をいじりながら
ボーッと空の方を
見ていたワ………
チチチ……

ああ、そんな空の日と同じで
あの男のことも、もう
思い出せないなア……
アンズの花の匂いの中で
遊んだ気もするから
春だったのかな…

二人で騒いでいる呑屋に
姉がむかえに来て
三人して帰った夜道のすだく
虫の声……で夏……?
アラ
サッサー

坂の上から眺めた町の灯が
きれいだっけ……
ああ、あそこへ降りて
行くんだ……
山師ですよ
田舎廻りの……
手品のような真似をしてね、
目をとじて今夢を見ていたと
ありがたそうなことを言うんで
祖父なんかコロリとまいって……

宿賃を請求したら襖に絵を画いて
つりはいらないからって……きいてます
ユーゴ、アイゴ

ユーゴ、アイゴ、ゲエロハウス
アンダスタ?
まったく……ね
半世紀も
昔のことですよ……

姉?
一人で苦労させて
しまった
四十……か……
静かな朝
で……

ええ、
笑っていました……

ヒットホー
ピルル
クスクス
クス

次回へ

桜の満開の下を
少女とオートバイが疾走する
目をつむったフルスピードの中で
少女はプラグの閃光を見る。
青春の眼が描いた
清冽のエロティックイメージ！

「緑色の翅」「旅の一夜」「思い出物語」
など名作を選りすぐって全九篇。

鈴木翁二の豪華限定愛蔵版

オートバイ少女

A五判 函入上製布貼 限定九〇〇部 定価二〇〇〇円(〒二〇〇円)

小部数限定のため当社にて直接販売いたしております。
なお郵送の場合は現金書留か振替でお申し込み下さい。

鈴木翁二作品集Ⅰ

マッチ一本の話

群青の空の一番星
懐しくてハイカラで
透明で涼しくて
キラキラひかる

限定版につき当社に直接御送金下さい

A5判二百二十二頁 上製函入
定価二千円 送料二百円

千代田区神田神保町一－一六一 青林堂